

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

1-1 趣旨

石炭産業最盛期、夕張市には幾つもの映画館が石炭生産に合わせて 24 時間営業を行っていました。映画が娯楽の王様だった時代です。しかし石炭産業と映画産業の斜陽化により館数も激減、映画の灯を残そうと日本初の市営映画館を開設したのが当市でした。また、古くは『女ひとり大地を行く』（1953 年公開）のロケが行われ、その後も『幸福の黄色いハンカチ』（1977 年公開）や『北の零年』（2005 年公開）など市民が全面協力するロケの名所としてその名を馳せてきました。

市内から最後の炭鉱がなくなった 1990 年、「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」は誕生しました。回を重ねるにつれ国際的な評価が高まり、内外にもまれな特徴のある映画祭へと成長してきました。小さな街で行われることによる参加者同士の距離の近さ、毎回数多くのボランティアが運営を支えることにより生れるアットホームな雰囲気。クエンティン・タランティーノやクァク・ジェヨンなど多数の世界的に活躍する映画監督たちをこの映画祭で発見・発掘し、韓国のプチョン国際ファンタスティック映画祭とも姉妹提携を結びました。まさに北海道を代表する国際的文化・芸術イベントです。

2006 年 7 月、その映画祭が夕張市の財政破綻により中止を余儀なくされました。その後、それを惜しむ声や支援・協力のメッセージが数多く私たちの元に寄せられています。それは映画関係者のみならず、広く全国の市民にも広がりつつあります。

このまちに花開いた映画・映像文化にこのまま幕を降ろしていいのだろうか、歴史を捨て去った後に新しい何かを再生できるのだろうか。夕張市民である私たちは様々な場で協議を重ねました。その結果、映画・映像をキーワードにしたまちづくり民間組織「ゆうばりファンタ」を設立し活動することが夕張再生の象徴になると私たちは確信しました。

1-2 事業とその目的

①国際映画祭の開催

映画・映像文化の振興及び地域の振興を図るために、知られざる又は埋もれた良質な国内外の映画・映像・映画人を発掘・発見し、かつ一般市民に対して紹介し、また出会った映画人と交流して応援する市民主体の国際映画祭の開催を目指します。

②フィルムコミッション事業

「映画のある街夕張」が持つ地域固有の資源(自然・風景・産物・そこに生活する人物など)に魅力を感じた映画人たちを応援し、かつ地域住民の映画・映像への愛情を育成し、また地域の経済振興を図るため、夕張で撮影する映画を誘致・製作支援し広く一般市民が参加できるフィルム・コミッション事業の推進を目指します。

③地域の映像の調査・研究事業

過去の風俗・風景・かつて生活していた人物についての記憶を次世代につなげるため、映画・映像や関連する資料を発掘・発見・調査し管理・研究する事業の推進を目指します。

